

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

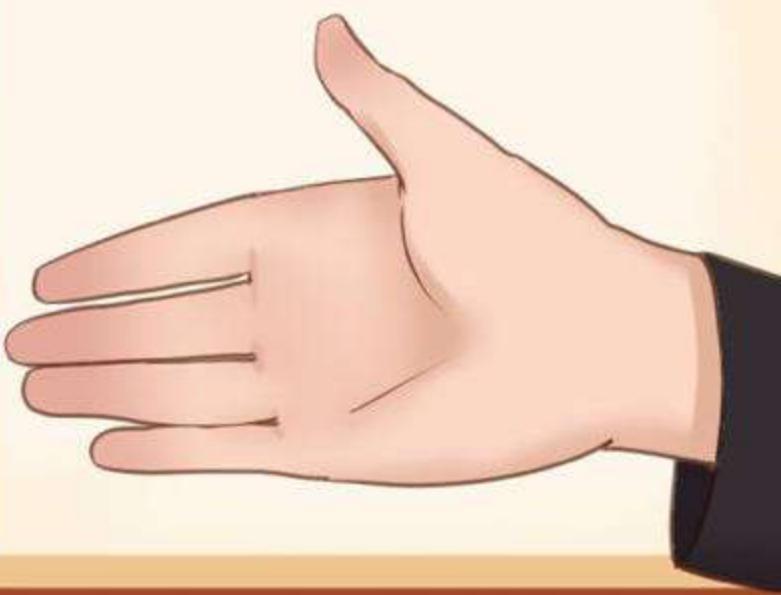


ゆるふわ巨乳ちゃんを犯したい

「ずっと前から好きでした！
俺と付き合ってくださいわー！」



「さっしやい！」



っ
っ

「い、いめんなさい！
えと…君のことよく知らないし…
付き合うのはちょっと無理かなあ…」



「そうですか…分かりました
残念ですが諦めます…」

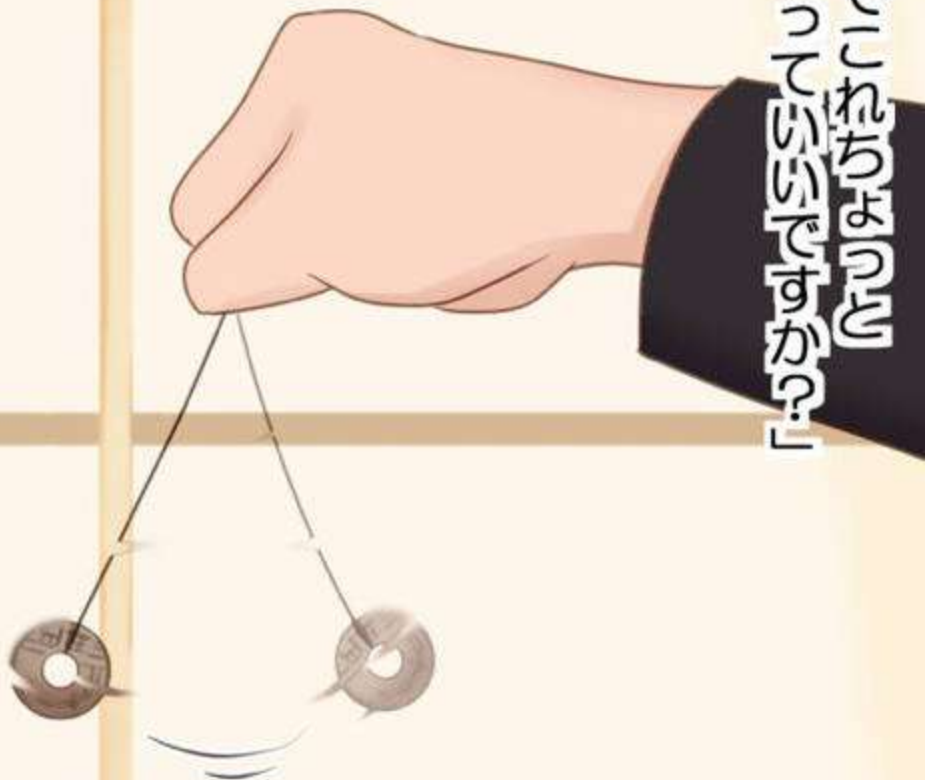


っ
っ

「いめんね…」



「ムジクムジク音がする
耳を閉じるんですけど」



~.



「ムジク」

「藤原さんは俺とえらちじたくなる…
藤原さんは俺とえらちじたくなる…」



〇〇〇



「ふわ…私が…えっち…」



〇〇〇

「ねえ…今からえっちなことしよ…?」

(やった、催眠成功!)

A close-up illustration of a young anime girl with short, wavy pink hair and large, bright blue eyes. She has a surprised or excited expression, with her mouth slightly open and a small blush on her cheeks. She is wearing a light purple bikini with a small dark purple bow on the center. Her hands are raised near her head, with fingers slightly curled. The background is a soft, light blue and white gradient, suggesting a bed or a soft surface.

催眠を掛けることに成功した俺は、彼女を自室のベッドに連れ込んだ
「ふ、藤原さんっ！藤原さんっ！」
「あん♡もー気が早いよぉ…♡♡」

（ああっ…憧れの藤原さんが目の前につ…!!
駄目だ、興奮を止められそうにねえっ…!!）

(…いや、落ち着け俺！
せっかくの初体験なんだから慎重にいかないと…！)
「ま、まずはおっぱい…
藤原さん、おっぱい触るね…？」

「ん…いそよ…♡
@nvsな…♡」



「これ、すごい大きくて弾力があって…
それでいてマシユマロみたいに柔らかくて…
めっちゃ揉みごたえ抜群だよ…!」
「あはは、何それーw
じゃあもっというばい揉んで〜?」

むにゅゅ

むにゅゅ

むにゅゅ

(嗚呼…ゆるゆる乳最高…♡)

「藤原さんっ！俺藤原さんの中にち○ぽ入りたいっ……！
藤原さんで童貞卒業したいっ……！」

「いーよお♡
千花のおま○にで童貞卒業しちゃお♡」

びくっ
びくっ



「ハア…ハア…ふ、藤原さん…
ち○ぽ入れるよ…?」



「んんっ…♡」

「熱いおち○ちん入ってくっ…♡」

「うおお…これが藤原さんの中…!」

「やべえ…マジで気持ち悪い…!」

「あはっ♡」

「童貞卒業おめでと〜!」

あはっ♡
あはっ♡
あはっ♡

「ハア…ハア…藤原さん…藤原さん…」

あんっ

あっ

あん

うんっ

ギッ

ギッ

ギッ

ズッ

ズッ

ズッ

「ああっ…駄目だっ…」

藤原さんの中身持ち良過ぎた

すっ…おっ…おっ…」

「ん、いいよ」

「千花の中にいっ…おっ…おっ…」





はぁ

ブルッ

はぁ

はぁ

がク

がク

どくん

どくん

「はぁあ…す…感動…」

セックスってこんな気持ちいいモノだったんだね…
藤原さん、本当にありがとう…」

「あはは♡」

「どういたしましゅ♡♡」

「よし、次は私が上になるばんっ…♡」

のしっ♡

「ふ、藤原さんっ…♡」



「あっ…おちんぽすい…い…♡
お腹の中でビクビク動いてるの分かるよ♡」
「うめあっ…！」

藤原さんの騎乗位ヤバ過ぎる…っ！



（まさか催眠を掛けただけで
こんな「えっちな女の子」に変身するなんてっ！）

「ほらっ…ほらあ…♡
 早く千花の中にい、
 いっぱい赤ちゃんの素ちよーだあい♡
 ドクドクラ、ドクドクラっって♡」
 「あっあっ…
 藤原さんっ…藤原さんっ…!」

(ああっ…っ…っ…っ…っ…っ…っ…っ…っ…
 また大量に精子せり上がっ…っ…っ…っ…っ…)



「藤原さん…あっ…出…あっ…」
「がんばれっ♡」
「あと少し、あと少しだ♡」

「あっ…あっ…」
「藤原さん…あっ…」



「んっ…おっ！…♡
せーっしっしっおっおっおっおっおっおっ…♡
ほらっっっっおっおっおっおっおっおっおっっっっっ
「あっあっ…藤原さん…藤原さん…！」



（ぐ…精液が全部絞り上げられる…ッ…）

童貞卒業に加え、一日に濃い精液を大量に二発、生中出し…
俺にとっては十分過ぎる体験だったが、催眠で淫乱になった
藤原さんにはまだまだ満足いくものではなかったようだ

「はあ…はあ…すごかった…」

藤原さんありがとう…」

「えへへ、まだせーし出せるよねえ…?」

「え、ちよっ、藤原さんっ…!?!」

グニ

グニ

ズッ

ズッ

ズッ
ズッ

グニ

グニ

ぶるんっ

ぶるんっ

「ぬふふ、

君のおち○ちんからせーえきを全部搾り出すまで

動くのやめないよ♡」

「そんな…しめしめ…!?!」

その後、藤原さんは自慢のゆるふわ巨乳を振り乱し、
さんさん上下運動を繰り返した後、ようやく催眠が解けて正気に戻った
「あれえ…何してたんだっけ…?」
「ハア…ハア…さ、最高だったよ藤原さん…
本当にありがとう…」

ちなみにこの時の俺は既に精も根も尽き果てた状態だったが、
俺の身体はこれまで生きてきた中で一番の
満足感と達成感に満ち溢れていた…



俺は一度藤原さんをハメた後も彼女とHすることをやめられず、
何度も彼女を呼び出しては催眠を掛けて彼女にいろいろシテもらった
「うっっっ…藤原さんっ…!!」
おっぱいいい…!!

「あ、学校でこんなにおちのちんおっきくっついでっ
いけないんだっ!!」



はむっ

もにゅ

もにゅ

にぎ

にぎ

(ああ…これまで何度藤原さんをオカズにしてシコったことか…でもこれからは藤原さんに直接シコいでもらえるんだ…!!)
「あ、藤原さんっ…藤原さんっ…!!」

しこ♡

しこ♡

もにゅ

もにゅ

あむっ

あむっ

「あははっ!!
おち○ちんびくびく跳ねてる!!
おもしろいw」



「んっ…そろそろかなん？
よろし、スピードあつぱだ！」

「あっ…藤原さ…
今そんな強くしたら駄目…あっ…！」



ん

あむっ

あむっ

もにゅ

もにゅ

あむっ
あむっ
あむっ

あむっ
あむっ
あむっ

「ひひひ…藤原さんっ…！」

藤原さんっ…！」

「あっ…でたー♡」

それっ、もっといっばい出しちゃえー♡」

（ひひひ…藤原さんの授乳手こき
マジ気持ち良過ぎる…！）



「ママあ…」

千花ママあ…おっぱい…」

「おっぱい♡」

ママのおっぱいはいっぱい吸って
もっとおっぱいなくなろうね♡」

（ああ…生藤原さんに甘えて生きていきたい…）



「発抜いてもらったら今日はもうお終いにしようと思っていたが、一度彼女の膣内の気持ち良さを知ってしまった俺のち○ぽは彼女をハメずにはいられなかった」「駄目だっ…やっぱ一日最低一発は藤原さんハメないと気が済まねえっ…!」

ぬ
びん
びん

「あん♡
やっぱりパコパコするんだねっ？
いらぬっ、いらぬっパコパコしてよっ♡」



「午前の授業中ずっと勃起してて……」
「昼休みに藤原さんハメることばっか考えてたっ……！」

「えっ？」
「ちゃんと授業受けないと駄目だよお？」
「悪いおち○ちんだあ♡」



「ムめし…無理し…
もう我慢できな…ううう！」

「おまじの♡
おーくおまじの♡おまじの♡おまじの♡おまじの♡」



「あは♡ちのぽまだビクビクしてる…♡
千花の中気持ち良かった？」

「うん…藤原さんの中マジ最高…
」のままずっとちのぽ入れてたい！」



「この後授業あるから
おち○ちんキレないであげなね♡」

くっ♡♡あ♡

ん
ん
ん

ん
ん
ん

「ありがと藤原さ…ウツ…」



「んじ…わんじ…
れろおし♡」



「あゝ藤原さん…キモチイイよ…」

「あ…でる…
藤原さんっ…!」



んんん
んんん

んんん
んんん

んんん

んんん

んんん

「はあっ!?!」

「もうせうかく綺麗にしたのに
また汚した〜!」



「いじめん...
藤原さんのフヘラが
気持ち良くてっ...!」

藤原さんと肉体関係を持ってから早数か月——
俺は催眠を掛けて彼女を手籠めにするつもりだったが、
今や完全にこっちが彼女の正ロボディによって手籠めにされていた
「くそっ……こんな正ロいカラダじゃがっ……！
毎日毎日ハメでもハメでもハメ足りねえっ……！」

「あはっ……♡
必死に腰振ってる……かわいいー♡」



「うっうっ…ち○ぽ気持ちいい…！
千花のま○こマジで名器過ぎる…！
一生俺だけのモノだからな…！」
「えっ？
一生はどうかなあ？
他の男の○ともえっちしたいかもあ？」

「千花っ…!?お前っ…！」



「な〜んちゃって♡」

冗談だよお♡

びっくりました♡

「千花〜お前〜」

もう二度とそういう冗談が言えないから

じつかり躰けてやるっ…!」



「あんっ♡激しくなったあ♡」

「あらっ……」

「この悪いビッチマ○めっ……
膣内射精の刑を食らえっ……!」

ビッチ
お
ク
ツ
ク
ツ

ビッチ
お
ク
ツ
ク
ツ

ビッチ
お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

お
ク
ツ
ク
ツ

「あらっ……
心じいの……
千花の一番深いとこに……
ドクドク出てるなあ……
お……
心……」



「ハア…ハア…これで分かったか…
千花のおっぱいもおま○こも
全部俺のモノだからな…
他の男が手を出せないように
しっかり臍奥にマーキングしてやったからな…」

どくん

どくん

どくん

どくん

どくん

どくん

「えへえ♡千花のナカ
君のせーしでいっぱい
マーキングされちゃったあ♡」



「あれ〜?」

千花のナカに出したのに
まだおち○ぽ固いままだあw

「これは千花がエロいせいだよ…」

千花の身体がエロ過ぎるせいで

一発やっただくらいじゃ治まんねーんだ」

「もうすぐそうやって人のせいにする〜w

そんなこと言う悪い人のおち○ちんは

おっぱいで挟んじゃえ〜♡」

「うおっ!」

ぐいっ

むぎゃー♡





「ゆるゆるパイ乳のパイヌリっ……!!」
「アツアツパイヌリっ……っ……!!」
「あはははっ何言ってるのさ?」
「ええええええええええ!!」
「んおおっ……!!」

ぐっ
っ

だ
い
が
い
っ
た
ら
っ

だ
い
が
い
っ
た
ら
っ

「おほい...」
ち○ぽんくもくもくううううだめさ!!
ほろほろ早くお尻はらの中に入
びゅびゅびゅじゅぢゅぢゅえ♡「
んん...」

もっと干花のおっぱい堪能したい...っ
ずっとゆるふわ巨乳に包まれていたいっ...!

ぐっ
っ

む
ぎゅ
むゅ

んん
んん

む
ぎゅ
むゅ

ぐっ
っ





「うっうっ…千花っ…
 千花ありっ…!」
 「あっ…でたっ♡
 「それっ…♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
 「…っ…っ…っ…っ…」

うっうっ

だっ
 ギャッ
 ヴ

びゅっ
 ギャッ
 っ

びゅっ
 ギャッ
 っ

だっ
 ギャッ
 ヴ

びゅっ
 ギャッ
 っ

ぐっ
 っ

びゅっ
 ギャッ
 っ

ぐっ
 っ



「えへへ…めっぱいでたね♡
千花のおっぱい気持ち良かった?」
「うん…
千花のおっぱいマジ最高…
明日もパイズリお願いね…♡」

ガク

ガク

催眠で藤原千花というゆるふわ巨乳の女の子と毎日セックスできる幸せのロタ——
俺はそんな千花とやりまくって何が何でも彼女を孕ませたいと思っている



「千花あつ……！」

あと何発中出しすれば妊娠するんだよお！

いい加減妊娠してくんないと

いつまでたってもムラムラが治まんねーんだよおー！」

「あつ……♡」

なんか今日いつもより激し……♡

ふわあつ……♡」

「千花っ…千花あっ…！
早く妊娠しろよおおお！
はよ俺の子を産めよおおお！」
「赤ちゃん欲しいのお？」
「じゃあいっぱいぴゅぴゅしなるとね」
「ふおおっ！」
千花っ…千花あっ…！



ギン

ズン

あ

あん

ギン

ギン

ズン

ズン

ズン

ズン

ギン

「んっ！と絶対妊娠させてやるっ……！
子宮にたっぷり精液注ぎ込んでやるからなあっ……！
絶対孕めよ千花あっ……！」

「うんっ♡
赤ちゃんの素、いっぱい千花の中に
ドクドクしてっ♡」



ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ズッ

ギ
シ

モ
モ
モ

モ
モ
モ

ん
ん
ん

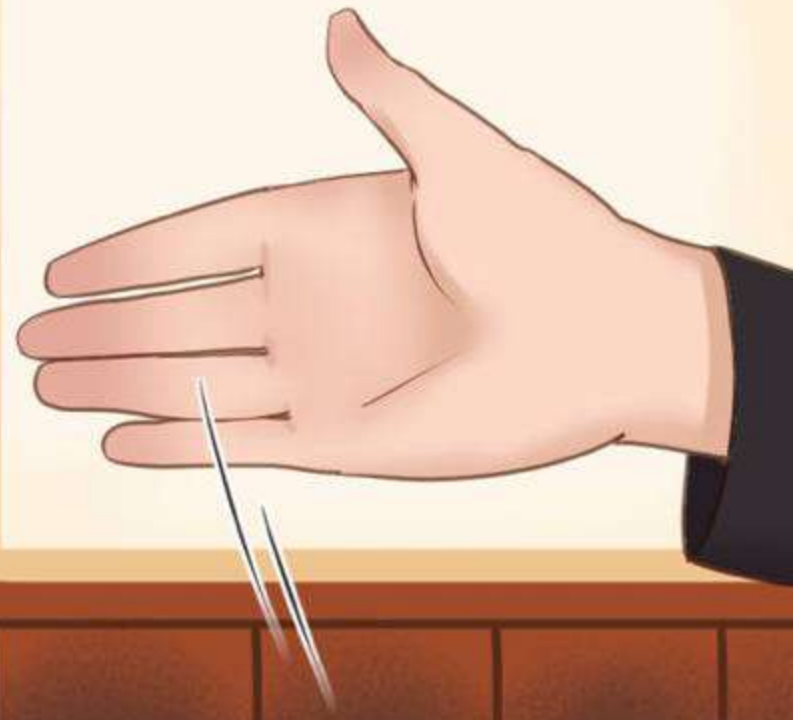
ん
ん
ん

ギ
シ

「ハア…ハア…ハア…やーし千花、
繋がったまま二回戦いくぞおお！
今日は千花がイキ疲れて音を上げるまで
徹底的にハメ倒してやるからなあ！」
「あはっ♡
「よし、じゃあどっちが「まいった」「って言うか
パコパコ勝負だあ♡」

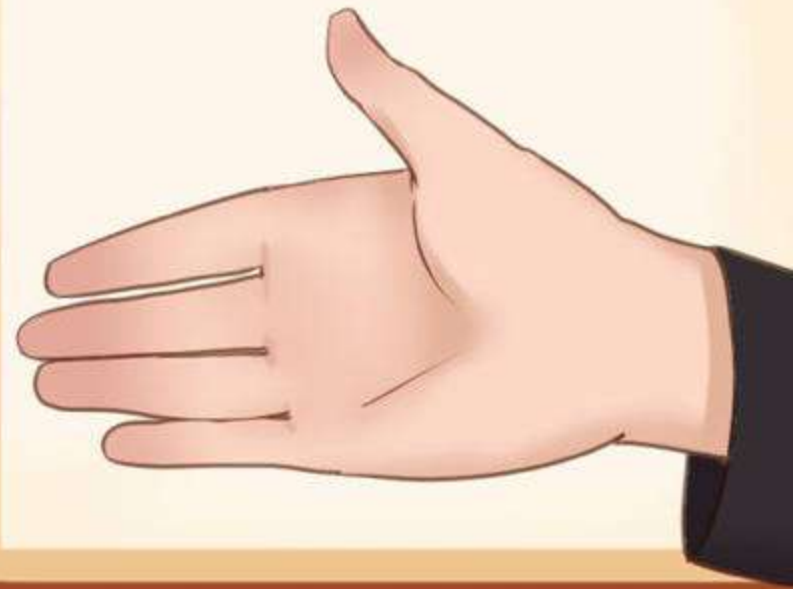
ギ
シ







〇
〇







?

